

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502165		
法人名	有限会社ライフケアアイ		
事業所名	グループホームらいふ敬愛		
所在地	北海道札幌市豊平区月寒東2条5丁目4-8		
自己評価作成日	平成 27年 1月 21日	評価結果市町村受理日	平成27年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは利用者様にゆったりと楽しく過ごし笑顔のたえない住まい造りを目指しています。今までの生活を大切に、漬け物やおはぎ作りなど季節の行事を楽しみながら利用者様にとっての大切な事を模索しながらケアに取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2014\\_022\\_kani=tue&JigyosyoCd=0170502165-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170502165-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階		
訪問調査日	平成 27 年 2 月 4 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

全館の床暖房が、暖かな、また清潔感のある雰囲気を醸し出しています。外陽を取り入れた回廊は居室への散歩道となっており、さりげなく設置された木製のベンチは利用者の休憩場所ともなっています。白い壁面と天井の間にはワンパターンの弊害を防ぐ色彩による変化を設けてあり、壁面を飾る片岡球子画伯の鮮烈な色彩と大胆なデフォルメの富士山が目を引きます。このような洗練された雰囲気の中で利用者職員との寄り添い、支えあいの暮らしが継続されています。献立と調理は職員の手で行われ、味、彩りに富んだ手作りの食事は利用者間で高評価であり、すべての利用者が残すことなく完食している様子は素晴らしく高く評価されます。現在、離職による職員の欠員補充に経営者の懸命な努力が続いていますが、ベテラン職員を中心とする平穏かつ利用者様に寄り添うケアはこのホームのグレードの高さを示すものと思われま

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	名札の裏に事業所の理念を入れている。施設内の利用者様にも見えるところに掲示しておりいつでも確認できるようにしている。ミーティングの時など理念に添えているか話し合っている。	職員は、運営理念が語りかける内容と意義を十分に理解しながら、ミーティングの機会を捉えてホームの約束事として確認をしています。職員各自の名札裏面に運営理念がプリントされているほか、ホーム内の随所に理念が掲示されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊りなど季節の行事に参加したり、ホームの行事をお知らせして参加いただいている。散歩の際やホームを通りかかった際は気軽に話しかけて頂ける関係となっている。	四方に住宅が立ち並び、職員は地域の住民として認識が深く、日常の挨拶など普段の生活としてのおつき合いをしています。玄関先でのお茶会には住民の参加もあるほか、花壇の手入れなども住民の協力が継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事の参加時に認知症介護についての理解や支援の状況をお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告はパソコンや写真を使い雰囲気が分かりやすいようにしている。年間の行事や災害対策などホームの現状や意見交換を行っている。	定例の会議開催が行われて、ホームの現況報告や当面の悩みなども明らかにしながら、メンバーからの意見などを聴取して運営に役立てようとしています。地域包括センター職員と地域住民の参加が少ないこと、また家族の出席への啓発が不足がちです。	沢山のメンバーによる会議の運営が望ましく、今後は消防署職員や専門家などの出席を要請しながら、内容のマンネリ化を防止する取り組みが期待されます。また家族に議事録を送付して会議の意義を理解していただき、出席に繋げるよう取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点など電話連絡や訪問し相談している。	介護保険の事務取り扱いなど、不明な事案は電話などで相談するようにしています。今後は外部評価の結果及び改善のための目標達成計画の説明するなど、これまで以上に連携を深めようとしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会や新聞記事の観覧、事務所内にポスターの掲示をしている。	身体拘束防止に関わるポスターを玄関内に掲示しながら、来訪の家族にも理解していただいています。身体拘束をしないケア及び虐待防止に関する内部研修を計画的に盛り込みながら、職員への徹底を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて理解を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ユニット内に成年後見人制度を利用している利用者様があり、研修や勉強会を通して権利擁護の理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は不安や疑問点がないか確認しながら説明するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やご家族の来訪時には要望や意見等をたずね、気軽にいろいろな事を話せる雰囲気作りに努めている。必要時には連絡ノートを活用し職員の情報共有に努めている。	家族には毎月1回の来訪をお願いして、顔の見える家族との交流が行われています。以前には利用者個々の様子を「おたより」で家族の下に送っていましたが最近は途絶えがちで、家族には「らいふだより」で利用者の様子を知らせています。「意見箱」の設置はありますが、投函はありません。	職員の多忙さは理解していますが、家族からの意見や要望を把握しながら、利用者を家族とともに支えようため、より一層の強い絆が求められ、それらの取り組みを強く期待します。また、「ご意見箱」や家族アンケートなどで家族に理解を求め、意見、アイデアを求めるなど活用が期待されます。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者は職員との面談や意見を聞く機会を設け、運営に反映されるように努めている。	現在、職員の充足に関して代表者が懸命に努力していますが、代表者、管理者、職員のこだわりのない良い雰囲気の間柄が目につきます。ベテラン職員などの積極的な提言は、ユニット会議や日々の業務日誌などで覗くことができ、ホームの運営に受け入れられて反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の活用		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員ができるだけ研修に参加できるような機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は関連事業所との定期的な交流の場があるが職員は同業者との交流がないため、今後合同の研修会を検討しサービスの向上、ネットワーク作りに取り組んでいきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入居前にご本人にも見学して頂きコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時や面会時にご家族とホームでの役割やできることの内容や考え方を説明し安心して利用できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時などご本人やご家族との会話の中で必要なサービスを見極め、他施設の紹介や地域包括支援センターへの相談を進めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に沿い、人生の先輩を敬いながら「共に暮らす」事の出来る関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時にはご家族と一緒に過ごせる時間を大切にしなが日常の様子を理解していただけるようコミュニケーションを取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂きながら友人、教え子の面会や年賀状や手紙、電話など遠方の方との継続的な交流ができるよう努めている。	毎月ホームに来てくださるボランティアの歌の先生や三味線の先生方とは顔なじみとなり、来られるたびに笑顔が生まれます。また、家族の協力を得てのお墓参りなど、ホームではこれらの関係継続を大切にして支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常的に他ユニットに訪問している。入居者様同士声を掛け合い家事に参加や体調の悪い方への気遣う様子も見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に行かれてもいつでも相談を受け入れられる体制であることを伝えている。退去されたご家族からも他の入居希望の相談を受けるなど途切れない関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりから触れ合う機会を多く持ち、一人ひとりの思いや意向を汲み取るよう努めている。意思疎通が困難な方にはご家族からの情報や表情、行動などを観察しながら職員同士で共有しミーティング等で検討している。	利用者の生活暦に家族の情報を加えながら、会話に生かして利用者の思いや意向の把握に努めています。思い出話は利用者の笑顔の源泉でもあり、得られた情報は職員で共有してケアに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やセンター方式にて確認している。使い慣れた家具や生活用品などを使用して安心して過ごせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や毎日のバイタル測定、月1～2回体重測定、往診等での健康状態と生活パターンの把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族とは日常の会話を通じ、思いや意見を聞き、職員、ケアマネージャーによる話し合いにより現状に即した介護計画を作成している。	家族の会話の中から要望を聞き取りながらカンファレンスで見直しを含めた検討が行われています。職員の日々の暮らしを記すケース記録は、利用者の言葉や表情までも細やかにとても良く記載されていますが、ケアプランの内容との連動性に欠ける傾向にあります。	プランの中では利用者の暮らしの継続に必要な項目が適切に取り上げられていますが、日々のモニタリングにあっても当該プランを意識した記載が望ましく、常にプランを念頭にした連動性ある記録への取り組みが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を随時記入し、ミーティングにて検討したり必要に応じて介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族来訪時や電話連絡時にご家族と相談しながら柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には地域包括支援センターの職員や町内会の方も出席しており周辺の情報など頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医と相談し、入居後は往診医に見て頂きながら年に1～2回入居前のかかりつけ医を受診頂くことで関わりを失くさない様になっている。	従来からの特殊な医療に関しては、本人や家族の希望を尊重して適切な医療を受けられる支援が行われています。現在ホームの協力医が家族の了解を得てかかりつけ医となって、往診治療などに当たっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、利用者様の健康状態や状態の変化など職員と気軽に相談し、主治医と連携を取りながら状態観察を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、早期退院にむけ入院先の担当者、ご家族と連携を取りながらお見舞いに行き状況の把握に努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が変化した場合は主治医、ご家族を交えて十分に話し合いをしている。もしもの時に備え心の準備が出来るようパンフレットも作成している。	ホームでは、看取りに関する詳細な取り決めの方針があり、現に重度化などに際して家族と医師による度々の話し合いがありますが、重度化した場合や終末に向けたホームとしての方針が整備されていません。ホームとして出来ること、出来ないことなど、インテイク(入居時の諸説明)には必要ですが、医療連携体制に関わる同意書もこの段階で家族から得られていません。		入居時に行われる重度化した場合や終末期での方針の作成と家族の同意が必要となり、これらの整備への取り組みが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し対応の流れを事務所に掲示している。定期的に全職員が実地訓練に参加できるようにしていきたい。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署、地域住民参加の避難訓練を年2回を実施している。地域住民宅と火災通報装置を連動しており、駆けつけられるようにしている。	消防署の協力を得て昼夜を想定した年2回の避難訓練が実施されています。ご近所への火災通報装置も整備され、臨場への駆け付けなど協力体制も出来ています。緊急時に際しての備蓄品、用品も充実しています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様の人格を尊重し、人生の先輩であるという気持ちをもって接し、プライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。	職員は、ホームの名称でもある「利用者を敬い、常に親しみの心を・・・」を、身をもって感じながら日々のサービスの支援に当たっています。日常会話に、トイレへの誘導に、また、入浴の際などに活かされています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた言葉かけや説明を行い、できるだけ自己決定できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、生活暦や本人のニーズに合わせて出来る限り希望に添えるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問利美容の利用や本人の好みの服装や化粧品を使用するなどその人らしい身だしなみができるよう支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話から好みの物や行事、季節にあった物をメニューに取り入れている。おはぎや漬け物作り、食事仕度、片付けなどその方の出来ることに合わせた支援をしている。	献立は職員が行い、食材は業者に発注しています。職員は味付けや彩りに気配りをして調理し、全ての利用者が残さずに食べてくれることに感謝と誇りが感じられます。時折外出を兼ねてレストランやラーメン店などへも出かけます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医や看護師と相談しながら一人ひとりに合った水分量を提供。メニュー表から好みの飲み物を選んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下体操を毎日行い口腔機能維持に努めている。口腔内の状態によって訪問歯科医による定期的なメンテナンスも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄パターンを記録し、職員間で情報の把握に努めている。オムツに頼ることがないように声かけのタイミングや失禁用下着などを使用し排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者個々の排泄パターンなどの把握により、それとない誘導でトイレでの自立排泄が励行されています。失禁が生じた場合も直ぐにオムツに頼ることなく出来るだけトイレでの排泄を誘導した支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操などで身体を動かす機会を多く持ったり、毎朝ヨーグルトを提供し下剤に頼らないよう努めている。疾患等により下剤を使用する場合も腹部マッサージの実施や食事・水分量を検討しながら提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制ではあるが身体状況をみて週2回を目安に入浴している。入浴が嫌いな利用者様には言葉かけや対応を工夫しながら入浴支援を図っている。原則個室ですが仲の良い利用者様同士で入浴されることもある。	利用者の入浴希望はまちまちですが、希望に添った入浴の支援が行われています。体調や入浴を拒む際にはも翌日に入浴してもらおう、またシャワー浴なども取り入れています。親しい仲間同士での入浴もあるなどストレスの解消に役立っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅での生活習慣を大切に、昼夜逆転にならないよう家事や他利用者様と楽しい時間を過ごせるよう支援している。午睡される方も長時間にならないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人ひとりのお薬情報を確認できるようにしている。医師・看護師と連携をとり、情報の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ちぎり絵や書道など一人ひとりに合わせた活動やクリスマス会や漬け物作りなど季節に合わせた行事やレクリエーションを提供するよう心かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	社用車によるドライブ、お花見、菖蒲園、花火大会、外食、大型商業施設など季節を感じるような外出に努めている。ご家族にも協力して頂き外食、外泊支援も行っている。	現在、厳しい冬季間および職員の離職に関わる人手不足のためマンツーマンの散歩など出来ない状況にありますが、代表者及び管理者は利用者のストレス解消のためにドライブによる外出など、外出支援が行われています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則ホームで管理させて頂いているが、本人の希望により買い物や行事等で使えるよう少額を自己管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望により支援している。遠方のご家族や親戚から品物が届いたときはお礼の電話をかけていただくよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分に利用者様の手作りの作品や季節に合わせた物を飾り、生活感や季節感を取り入れている。床暖房やクーラーを使用し温度調整を行なっている。	中庭の吹き抜けを回る回廊が、外陽を存分に取り入れて居室まで誘導されています。トイレ、洗面所の近くには木製のベンチがさりげなく設置され共有空間での憩いの場となっています。広い居間と食堂に広がる壁面は、片岡球子画伯の大胆なデフォルメの富士山を中心としたセンスある絵画と利用者の塗り絵などが掲示され来訪者の足を止めます。和室も障子戸で遮ることが出来て多目的な利用を可能としています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や施設内各所に木の木製のベンチを設置しており、くつろげるスペースを作っている。居間のソファや居室などで利用者様同士談話している様子も見受けられる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用していた馴染みの家具やお仏壇、ご本人の好みの物や写真を飾り、居心地良く過ごせるよう工夫している。	利用者により持ち込まれた馴染みの家具、生活用品はそれぞれ家族と相談したレイアウトにより安心の暮らしの空間となっています。廊下や居室にいたる床暖房が清潔かつ暖かな雰囲気を出しています。居室のドアは引き戸を採用し、高低の差を解消した取っ手が設えられるなど工夫が見られます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置し、安全に歩けるようにしている。トイレ、居室など場所が把握できるようにして自立した生活が送れるよう工夫している。		